



園だより 2月

令和8年1月30日
千代田区立麴町幼稚園
園長 木村 恭子

つながりから豊かな学びへ

園長 木村恭子

暦の上では春を迎えますが、園庭に吹く風はまだまだ冷たく、身にしみる寒さが続いています。そんな厳しい寒さの中でも子どもたちは、自分で作った凧が空に舞い上がるのを喜びながら校庭を思い切り走り回り、たくましい姿を見せてくれます。冷たい風は凧にとっては心強い味方です。思うように揚がらず工夫を重ねたり、友だちと声を掛け合ったりする姿からは、遊びを通して育まれる力やつながりを感じます。

1月には、保育園やこども園、小学校と合同で研修会を行いました。幼児期の経験が、その後の小学校生活や学習にどのようにつながっていくのかをテーマに、立場を越えて意見を交わしながら共に学びを深め、成果の大きい時間となりました。当日公開した年長児と1年生の交流活動では、幼児に寄り添い、目線に合わせて、自分より小さい相手を意識して関わる1年生の姿が見られました。

この姿の背景には、学校生活での学習とともに、幼稚園等で大切にしている異学年同士でつながる経験もしっかり生きています。園生活の中で年長児は、年下の友達の思いに心寄せる生活を日々重ねていきます。1月末に行った園内の縦割り活動「なかよしチャレンジ」での5歳児そら組の活躍ぶりや、小学校での交流の場面が重なり合い、経験が確かにつながり、次の育ちへと生きていることを実感できます。



タブレットの使い方も、やさしく教えてくれました

1月には、そら組が保育園を訪問し、一緒にお弁当を食べる交流会を行いました。さらに職員同士も、今回の合同研修会の打ち合わせを合同で行うなど、地域の保育園とのつながりが大きく前進した一年となりました。こうした横のつながりが、地域全体の幼児の育ちを支え、就学後の豊かな成長の土台になると考えます。

地域とのつながりからも、豊かな経験が生まれています。1月の昔遊びの会では、地域の方々をお招きして、さまざまな昔遊びを楽しみました。やさしく教えてもらったり、励ましてもらったりしながら遊ぶ中で、子どもたちは安心感や信頼感をもって活動に取り組むことができました。体験を通して育つ「生きた学び」の質が高まったことに加え、人と関わる温かさや、感謝の気持ちを育む機会になりました。

また今月半ばには、3歳児学級の「はなぐみこどもかい」が予定されています。12月に4歳児やま組・5歳児そら組の劇を見て心を動かされた、はな組さん。「次は自分たちの番だ!」という思いを膨らませ、意欲を高めてきました。憧れの気持ちや挑戦する気持ちは、年上の子どもたちの姿を身近に感じてきたからこそ育ったものです。これもまたこれまでに培ったつながりが土台となっています。

身近な人とのつながり、そして経験のつながりを意識した環境の中で、一つ一つの学びがより豊かに重なるよう、今後も保育と環境づくりを丁寧にすすめてまいります。人と関わり、刺激を受け合いながら重ねる学びから、子どもたち自身の中にも、“つながり”を生かし、大切に育つ素地が育つことでしょう。

今年度も、残すところひと月半となりました。寒さの中にも、確かな成長の芽吹きを感じながら、子どもたちとともに歩んでいきたいと思っています。